―― バックアップ記録の情報管理 ――

リカバリで必要となるバックアップ採取記録情報の管理
＝制御ファイルの中のバックアップ関連レコードに対する保持期間

＝コントロールファイルに記録される処理履歴記録レコードの保持

＝制御（コントロール）ファイル内の循環再利用レコードの保持期間

RMAN バックアップの保持世代数の設定 RMAN

保持期限が過ぎたバックアップの表示 RMAN

保持期限が過ぎたバックアップの削除 RMAN

リカバリで必要となるバックアップ採取記録情報の管理

RMAN でバックアップを行うと、
バックアップして採取したファイル名、および、フルバックアップや他の差分バックアップとのこの時の SCN 番号が、**バックアップ採取記録情報**として保存される
通常は、バックアップ対象 DB のコントロールファイルに保存される
（但し、RMAN リポジトリデータベース（＝リカバリカタログデータベース）が構成されている場合には、そこに保存される（制御ファイルには保存されない））

バックアップ採取記録情報が、コントロールファイルに保存された場合には、このレコードは RMAN の世代管理環境とは関係なく、所定の日数が経過した場合に上書き更新され、無くなってしまう

リカバリで使用するこのバックアップ採取記録情報を、バックアップの世代管理を行っている日まで削除（上書き）されないようにするためには、初期化パラメータに以下の設定変更を行って、**制御ファイルのレコード保持期間**を延長する

初期化パラメータの制御ファイルのレコード保持期間の操作

sql> alter　system　set　control_file_record_keep_time = ＜ｎ＞　scope = both　；

＜ｎ＞：３週間の保持を行うためには
7×3＋1＝22　　∴２２を指定

RMAN バックアップの保持世代数の設定 RMAN

$ rman target ユーザー名/パスワード

現在の保持世代数の設定状態の表示
rman> SHOW RETENTION POLICY ;

CONFIGURE RETENTION POLICY REDUNDANCY 1 :
↑
一世代のみの保存

保持世代数の設定状態の変更 →２へ
rman> CONFIGURE RETENTION POLICY TO REDUNDANCY 2 ;

old RMAN configuration parameters :
CONFIGURE RETENTION POLICY REDUNDANCY 1 :
new RMAN configuration parameters :
CONFIGURE RETENTION POLICY REDUNDANCY 2 :
↑
二世代の保存

※ RMAN バックアップの保持世代数を変更した場合には、制御ファイルのレコード保持期間もあわせて変更する必要があります

保持期限が過ぎたバックアップの表示 RMAN

rman> REPORT OBSOLETE ;

保持期限が過ぎたバックアップの削除 RMAN

rman> DELETE OBSOLETE ;

※ この Delete 処理は、アーカイブ Redo ログのファイル削除とは無関係である
アーカイブ Redo ログは、削除されない